双葉葉通信【第 103 回】“ふくしまの切捨ては許さない”　　20200701

上　田　　勉

3・11 東日本大震災・福島第一原発事故と芸術家

3・11 の時、多くの芸術家達（音楽家・俳優・作家・画家等）は悩みました。それは自分が今までにやってきたことが、果たして社会の役に立っているのか、また今、被災者に対して自分が何ができるのか、と言うことでした。ある音楽家が仮設住宅で演奏した時に、被災者から「あなたはこんな時に音楽なんかしている場合か」と言われました。しかし、演奏を聴いて、生きることと連帯の心に勇気づけられた被災者も、多かったのです。

私は気仙沼市と楢葉町で復旧の仕事をしましたが、その時には多くの音楽家が来て、演奏してくれました。仙台でコンサートをしたついでに、被災地を回って演奏をしてくれるのです。千住真理子（ヴァイオリンニスト）の演奏も聞きました。入場料はもちろんタダです。私はこの時ほど、東京ではなく、被災地にいてよかったと思うことはありませんでした。

新型コロナウィルスの中での芸術家

新型コロナウィルスの中、今多くの芸術家たちは、大変な状況になっています。①音楽会や演劇が出来ない。映画を撮ることが出来ない。②多くの芸術家はフリーランスなので、生活をすることが出来ない。③3・11 の時と違って、国民全員がコロナの被害者なので、慰問して演奏することが出来ない、ことです。また、このままでは、ライブハウスや小劇場・映画館も閉館になるかもしれません

安倍自公連立政権は、新自由主義と自己責任の立場から、特に芸術家に補償することはしません。また、旅行への関心は高い（ゴーツー・キャンペーン）が、芸術への関心は低くて、芸術は不要不急なものと考えているのかもしれません。

一方、ベートーヴェン（今年は生誕 250 年）やバッハ（今年は生誕 335 年）を生んだドイツでは、真っ先に音楽家に対して、政府が補助金を支給しました。音楽は生活になくてはならないものだということが、国民の一致した考えだからです。

私は、いわき演劇鑑賞会と山形交響楽団（山響）の会員になっています。いわき演劇鑑賞会は、7 月 10 日に大劇場から中劇場の 2 回公演に変更して、再開しました。演目は「8 月に乾杯（俳優座）」（小笠原良知・岩崎加根子主演の二人芝居）でした。老年の 2 人の男女の出会いと別れを見て、人を好きになるのに年齢は関係ないと感動しました。

山響は 7 月 25 日に、定期会員の一部を招待して、新しいやまぎん県民ホールで演奏会を開始しました。しかし、コロナの第二波によって、9 月以降の演奏会はするものの、観客を半分にしなければならないこともあって、会員には入場料金（会費）を返すことにしました。私は、会費は寄付するので、代わりにブルックナーの交響曲の CD2 枚をくださいと、厚かましい返事を書きました。

【「8 月に乾杯」カーテンコール　小笠原良知・岩崎加根子（いわき演劇鑑賞会）】

【山形交響楽団　フィナーレのあいさつ（やまぎん県民ホール　山形市）】